

高齢福祉(主に介護保険事業)

について問う

斉藤 貢一 議員

質問 当市における後期高齢者数の現状及び平成37年の推計、並びに特別養護老人ホームにおける入所待機者数をお伺いします。

答 後期高齢者は、平成27年が9239人で、構成比が12%、平成37年には1万2577人で、構成比が17・6%になると推計され

ます。特養の入居待機者は、240人前後で推移し、緊急度の高い方が64人、在宅で入所の必要性の高い方が30人となっております。

質問 後期高齢者人口が増加すれば、要支援・要介護認定者が増えるのは当然で、平成37年には4523人となり、現状と比べ約1200

人増加すると予想されています。また、特養は制度改正により、要介護3以上の方が対象となり、所得による段階別入居費も設定しております。このように低所得者を対象とした料金設定をしている施設にはケアハウス等があり、要介護度が比較的軽い方の受け皿として期待されていますが、この施設サービスの計画についてや、居住費等の負担の軽減を受けている低所得者の割合をお伺いします。

答 市内には定員30人のケアハウスが3か所あります。県内のケアハウスの整備状況は、近県で最も多いことから、現状の定員を維持しながら、地域の実情に応じた弾力的な対応を行っております。また、入居者に占める低所得者の割合は約65%と考えております。

た上での、施設サービスと居宅サービス両方の充実が求められます。ただ下流老人の言葉に代表されるように、高齢者の間にも格差が広がってきているのも事実です。認知症患者のグループホームやサービス付高齢者住宅等で過ごせる人もいれば、短期入所の繰り返しや家族のご苦労により在宅で頑張っている人もいます。尊厳ある老後を迎えていただくためにも、特養施設の充実をお願いします。

多々良駅周辺他の区画整理事業、大島地区ほ場整備について

青木 幸雄 議員

質問 隣町の区画整理が多々良駅から100mのところまで進んでいます。この事業の着手に当たって、隣町から本市に対し事前に歩調を合わせるような協議はあったのか。

答 邑楽町施行の鶏土地区画整理事業に伴い、行政の境界の確認などの協議は

実施されております。今後、隣接する四町との連携は一層重要度を増していきまますので、行政の境界付近で開発がある場合には、関連自治体で協議を行い、足並みがそろえられるよう連携を図ってまいります。

質問 中途半端な状況になっている都市整備事業につ

いて、特に館林駅西口整備や、茂林寺前駅西口、成島駅・多々良駅周辺の整備など、ある観光客からは「館林市は時間がとまつていく」との声もあるが、いつごろまでに完了するのか。

答 館林駅西口整備は、平成24年度から広場内の工事を施工し、現在半分程度の整備が完了しております。茂林寺前駅西側区域市道整備事業は、鉄道事業者や関係機関と協議を行い、事業の進捗に努めております。

成島駅周辺の道路整備は、平成24年度より工事に着手し、平成30年度の事業完了を目指しており、多々良駅周辺の道路整備は、平成23年度で完了しております。

質問 一向に進んでいない大島地区の農村地域基盤整備事業の現状は。

答 現在、地権者の同意率も96%となり、事業主体となる県との協議を進めるとともに、国への事業申請に向けて取り組んでおります。

質問 大島地区の地元負担

についてはどうなるのか。

答 事業計画において、担い手への農地集積を最大限行い、地権者の負担軽減に努めてまいります。

質問 今後のほ場整備の目指すあり方と方向性についてはどうなりますか。

答 現在進めている大島地区のほ場整備を着実かつ迅速に整備することにより、次世代に大切なほ場を引き継いでいけるよう全力で取り組んでまいりたいと考えております。